

7) 日常生活全般について

日常生活全般について

- 日常生活全般では、「言葉が通じないこと」を筆頭に、「文化・習慣の違い」や「運転免許の取得」、「仕事のこと」など、心配事は多岐にわたっている。
- 現在、心配事の解決は、人的ネットワークに頼っていることがうかがえるが、それは、ある意味、友人等が総合窓口になっていることも理由の一つと考えられる。そのため、分野に拘らず、様々な問題に対応する総合窓口的役割を、行政や財団、NPO等で担っていくことも考えられる。

「在住外国人に対するアンケート」(石川県)より

日常生活全般に関する不安等について

- 日常生活での悩み事、心配事としては、「言葉が通じないこと」(約32%)が最も多く、次いで、「文化や習慣の違い」(約20%)、「母国語で書かれた情報が少ないこと」(約20%)となっている一方で、悩み事や心配事がないという人も約20%見受けられる。
- また「病気やケガをした場合の対応」(約18%)や「地震等の大災害が起きた場合の対応」(約16%)など、安全・安心な暮らしに関わる心配事も上位を占めている。
- 地区別にみると、能登地区で特徴的な傾向を示しているのが、「母国語で書かれた情報が少ない」や「育児や子どもの教育のこと」の割合が高いことである。
- なお困った時の相談者としては、母国にいる家族、親戚と回答した人が約43%であり、その他、日本人に関わらず、知人・友人へ相談する人が多いことから、人的ネットワークに頼っていることがうかがえる。ちなみに、役所等の公的機関の相談窓口やNPO等ボランティア団体に相談する人は少ない結果であった。

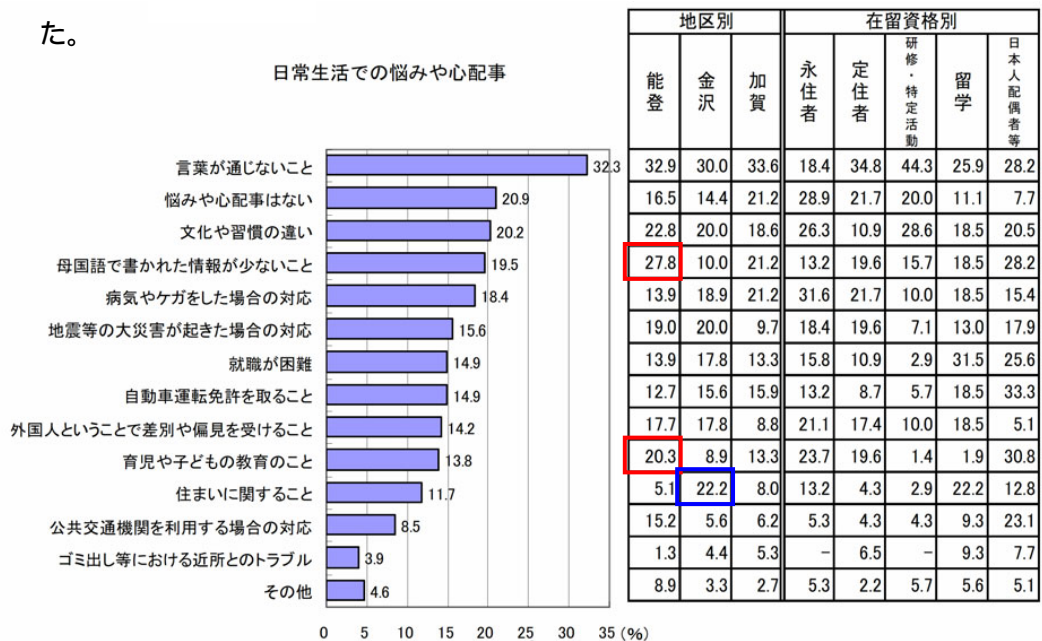


図 4-83 日常生活全般に関する不安等(石川県)

「在住外国人アンケート調査」(福井県)より

日常生活全般に関する不安等について

- 市役所や病院での会話など日常生活について、約3割の人が「特にこまっている」「こまっている」と回答している。

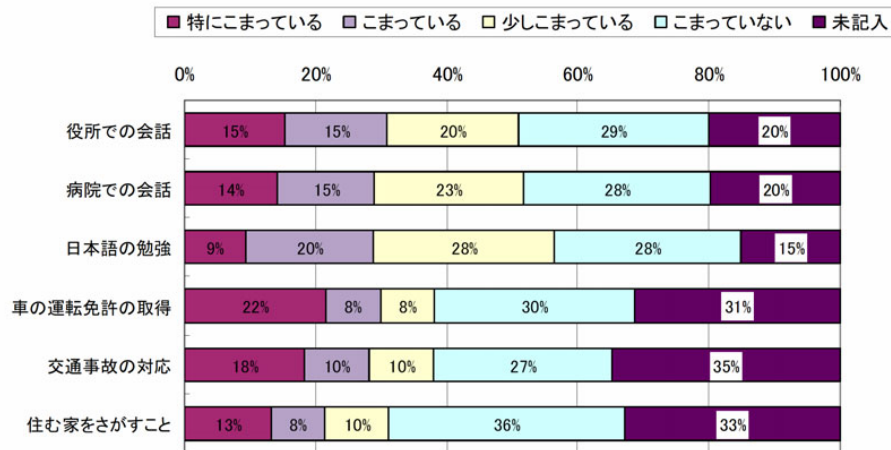


図 4-84 日常生活全般に関する不安等 (福井県)

「新潟県在住外国人生活アンケート調査」(新潟県)より

日常生活全般に関する不安等について

- 普段の生活での困難や不安としては、「日本語がよくわからない」が 37.8%で最も多く挙げられた。以下、「仕事のこと」が 33.3%、「病気やけがの時の対処のしかた」が 22.3%、「子供の教育のこと」が 21.0%、「住宅のこと」が 18.0%などの順序であった。一方、「特に困っていることはない」との回答は 24.3%で全体の4分の1となっている。

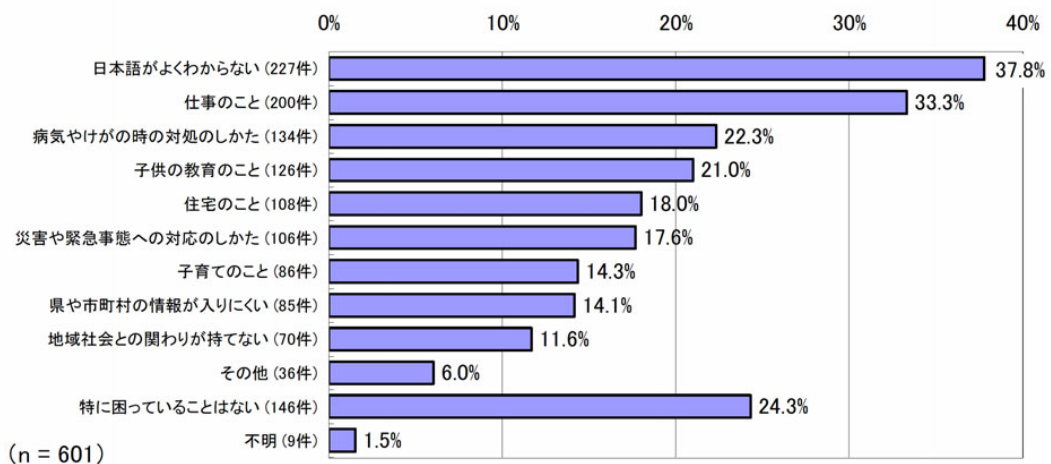


図 4-85 日常生活全般に関する不安等 (新潟県)

8) 行政への要望防災について

日常生活全般について

- 行政への要望は、1) から 7) までの内容を総括する形となっている。
- 日本語学習支援、防災をはじめとする行政情報や就職、医療等に関する情報の母国語での提供、相談窓口の設置、などである。

今後、北陸圏において、外国人との共生がより一層展開されることをかんがみ、一県のみでの対応ではなくて、補完しあう形での広域連携を模索する必要がある。

「在住外国人に対するアンケート調査」(富山県)より

行政への要望について

- 多言語による行政情報は、6割近くの人が「足りない」としている。また、「日本語以外の情報を見たことがない」という人も14.5%おり、提供している多言語情報が十分に周知されていないようである。また、「病院や医療」、「災害や事故などの緊急時情報」、「日本語を学ぶ場所」など、日常生活に直接関わることや安全に関する情報の充実を求める声が多い。

充実してほしい役所からの情報は

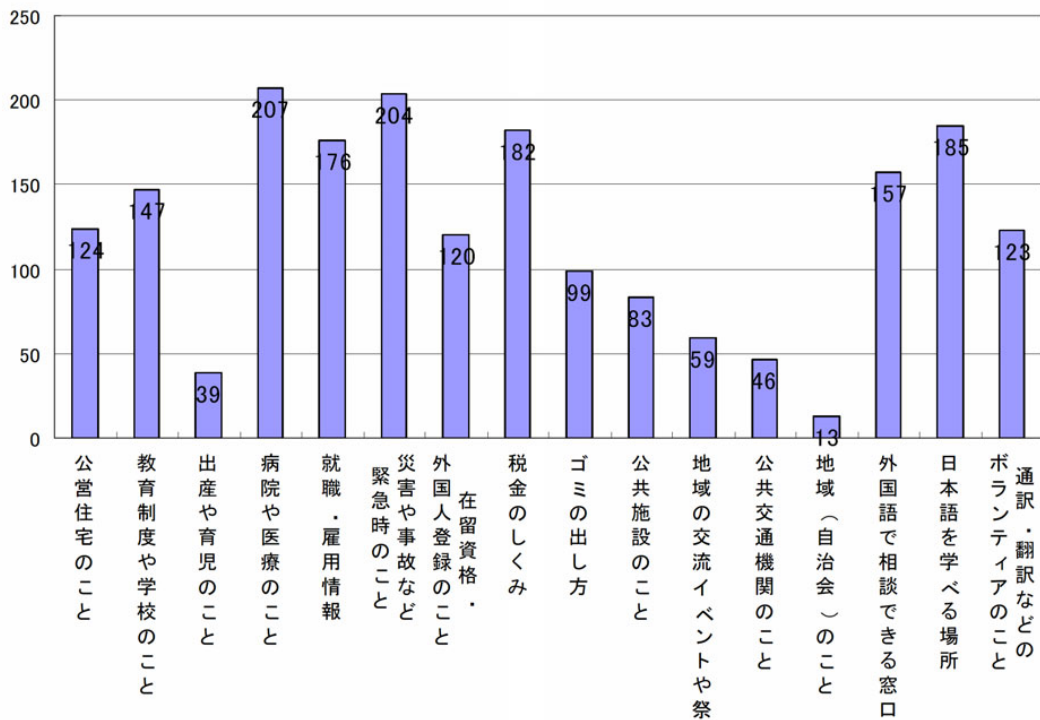


図 4-86 行政への要望(富山県実施アンケート)

「在住外国人に対するアンケート」(石川県)より

行政への要望について

- 回答者の約 4 割が「日本語学習への支援」を望んでいることを筆頭に、「母国語による行政サービス情報の提供」をはじめ、比較的全選択肢を要望している結果となっている。

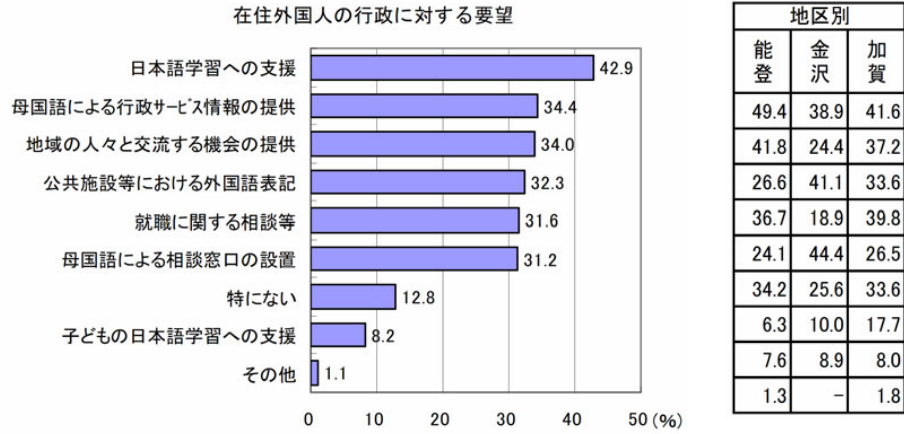


図 4-87 行政への要望 (石川県実施アンケート)

「在住外国人アンケート調査」(福井県)より

行政への要望について

- 求めている支援について、全体では、「病院、役所、学校、ハローワークでの通訳・翻訳の紹介やサービス」、「日本人と交流できる場所」、「近くで簡単な日本語の会話や読み書きが学べる場所」の順が多かった。なお、在住外国人が多い市の回答者は、求める支援として「外国語で相談できる市や町の窓口が近くにあること」を選択している人が多かった。

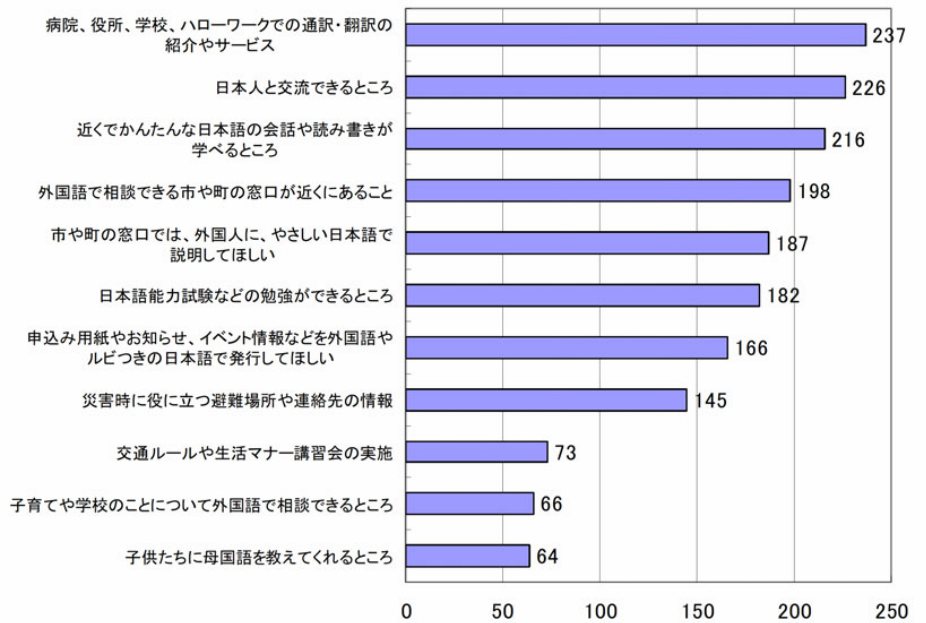


図 4-88 行政への要望 (福井県実施アンケート)

「新潟県在住外国人生活アンケート調査」(新潟県)より

行政への要望について

- 県や市町村が行う外国人向けの行政サービスで充実してほしいものとしては、「職業の斡旋や相談受付」が 37.9%、「日本語教室の開催」が 37.4%、「病院での外国人への配慮(外国語での表記・対応)」が 35.9%、「外国人も参加できる交流事業や公民館活動」が 34.9%、「事故や災害など緊急時の対応の充実」が 31.8%などの順序であった。(以下、選択肢の表記を一部省略)

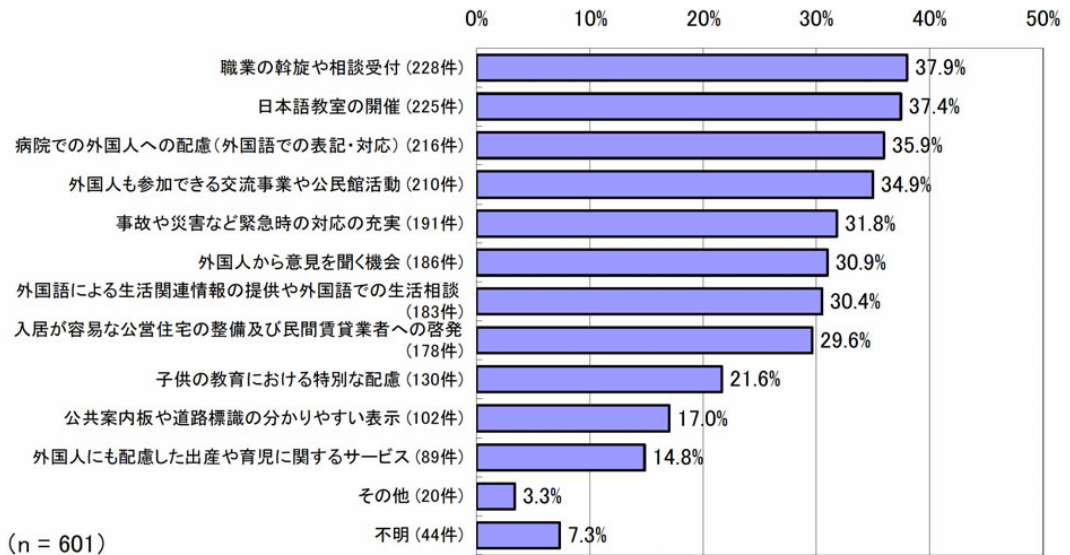


図 4-89 行政への要望(新潟県実施アンケート)

「在住外国人に対するアンケート調査」(富山県)より

留学して苦労したことについて

- 留学して苦労したこととしては、「物価の高さ」が最も多く、特に私費留学生に多い。一方、国費等留学生では「日本語の習得」を挙げる者が最も多い。

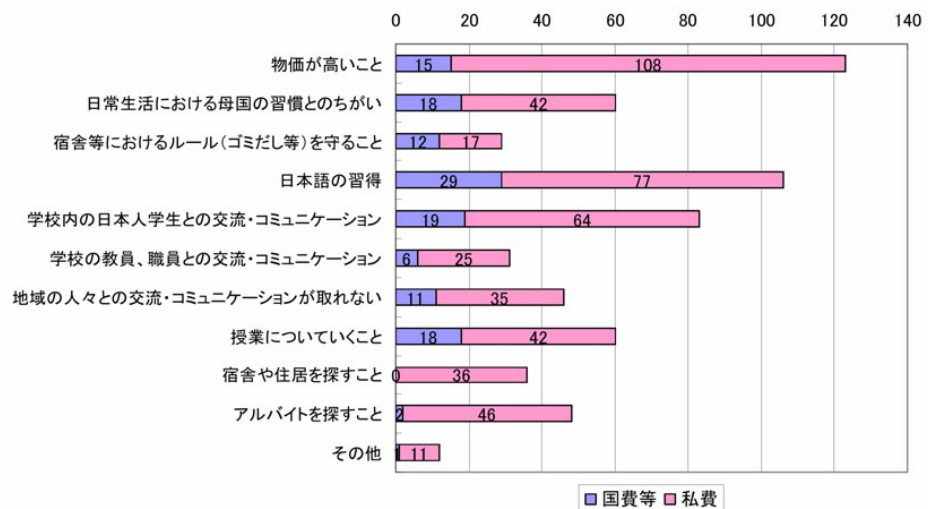


図 4-90 留学して苦労したこと(富山県)

「平成 17 年度県民アンケート調査」(新潟県)より

行政が推進すべきことについて

- 「外国人に対する日本の文化や生活習慣の講座の開催」が 56.3%と最も高く、以下「外国人に対する法律・地域のルールなどの情報提供」54.6%、「外国人に対する日本語教育の充実」31.7%などの順となっている。「その他」としては、「不法滞在の取り締まり」「入国審査の強化」「ある意味でのノーマライゼーションの実現」が挙げられていた。

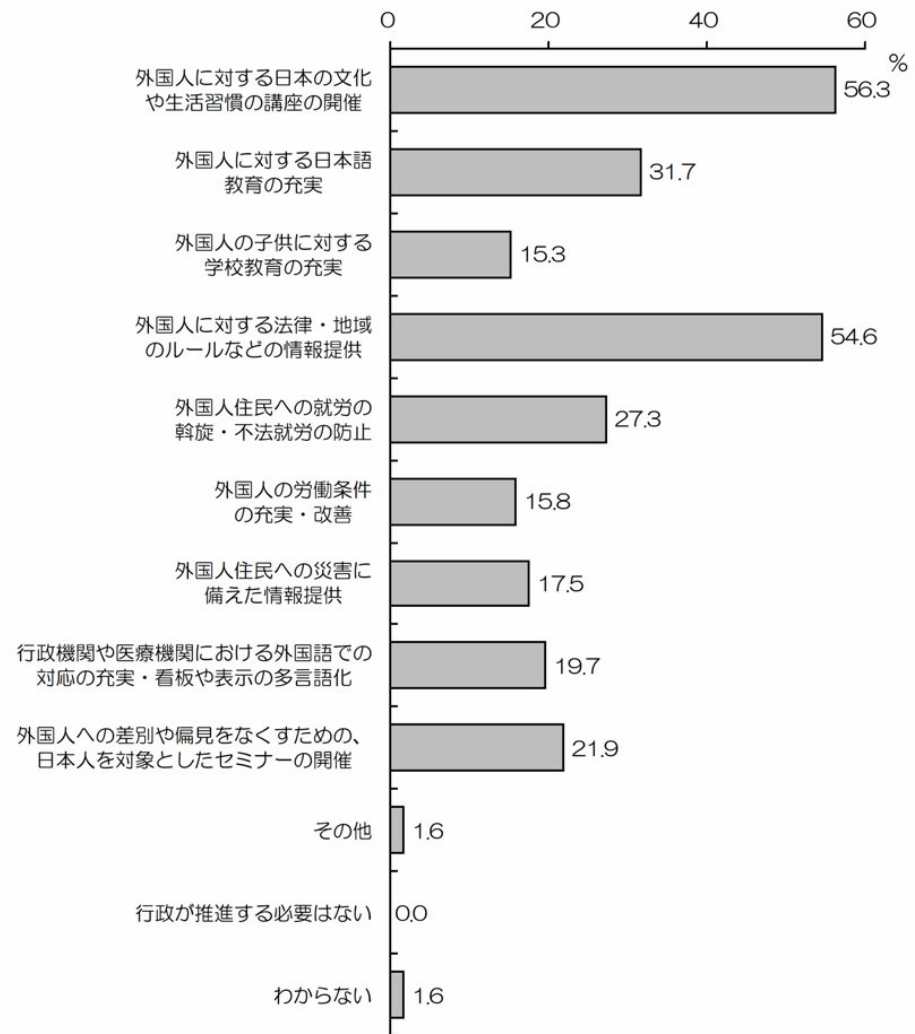


図 4-91 行政が推進すべきこと (新潟県)

(3) 各県における既往の取組

国の動向等も受けて、各県でも取組が行われている。ここでは、各県の総合計画に基づいて、各県で行われている外国人の暮らしやすい環境整備に関する取組について調査を行った。これにより、施策の課題ごとの対策の実施状況を整理し、今後の課題について整理した。既往の各県ごとの取組を見ると多文化共生を目指した交流拡大に主眼が置かれている。

諸外国からの外国人居住者が増加する中で、国では平成 17 年 6 月に「多文化共生の推進に関する研究会」を設置し、翌 18 年 3 月には「地域における多文化共生推進プラン」を策定するなど、地域における多文化共生を国際交流、国際協力とともに、地域の国際化推進の柱としていくことを各県の自治体に求めている。

昨今の世界金融資本市場の危機に伴う世界的な景気後退は、日系人をはじめ、日本語で生活することが困難な定住外国人に対し、教育、雇用などさまざまな面で深刻な影響を与えている。こうした状況をかんがみ、平成 21 年 1 月 9 日に内閣府に「定住外国人施策推進室」を設け、関係省庁連携の下、必要な対策を講じることとしている。また、定住外国人支援に関する当面の対策をとりまとめた。

以降に概要を示す。

1. 教育対策

経済上の問題から外国人学校での就学が困難となった児童・生徒の公立学校への円滑な転入を確保するとともに、子どもたちの居場所づくり等を推進する。

- (1) 公立学校に転入する者に対する支援（文部科学省）
- (2) 子どもたちの居場所づくり（文部科学省）
- (3) 子どもたちに対する就学支援（総務省）
- (4) その他の支援（文部科学省、厚生労働省）

2. 雇用対策

定住外国人の就職や、雇用の維持・創出等に対する支援を行うとともに、定住外国人向け研修及び定住外国人に対する職業訓練の充実を図る。

- (1) 就職支援（厚生労働省）
- (2) 雇用の創出等に対する支援（内閣府、厚生労働省）
- (3) 定住外国人向け研修等の充実（厚生労働省）
- (4) 地方自治体が行う緊急対策への財政支援（総務省）
- (5) その他の支援（厚生労働省）

3. 住宅対策

離職した定住外国人及びその家族について、離職後の居住の安定確保を図る。

- (1) 公的賃貸住宅の活用（国土交通省）
- (2) 民間賃貸住宅への入居支援（国土交通省）
- (3) 地方自治体が行う緊急対策への財政支援（総務省）

4. 帰国支援

本国への帰国を希望する定住外国人の円滑な帰国が可能となるよう、環境整備を図る。

- (1) 本国政府への要請（外務省）
- (2) 産業界への要請（経済産業省）
- (3) 航空会社等への要請（国土交通省）

5. 国内外における情報提供

国内外において、必要な情報提供を進める。

- (1) ポータルサイトの構築（内閣府、各省庁）
- (2) 各種情報の多言語による提供（各省庁）
- (3) 相談窓口の充実（法務省、厚生労働省）
- (4) 国外における広報（外務省、各省庁）

1) 富山県の居住外国人支援への主な取組

富山県では、地域における外国人住民との共生が大きな課題となっていることを背景に、平成 18 年 6 月に「とやまの国際化を考える検討会（座長：永田円了 元・富山国際大学教授）」を設置した。同検討会では、外国人にも暮らしやすい地域づくり、住民との共生などの課題や今後の取組のあり方等について検討し、多文化共生推進プランの案を取りまとめた。これを受けて、平成 19 年 3 月、「富山県多文化共生推進プラン～外国人にも暮らしやすい、世界に開かれた「元気とやま」の創造～」を策定した。

その他、国際交流に関わる計画や構想としては、下記のものを策定、作成している。

- ・「日本海博物館基本計画中間報告書」
- ・「日本海ミュージアム構想基本計画 中間報告」
- ・「北西太平洋行動計画(NOWPAP)」

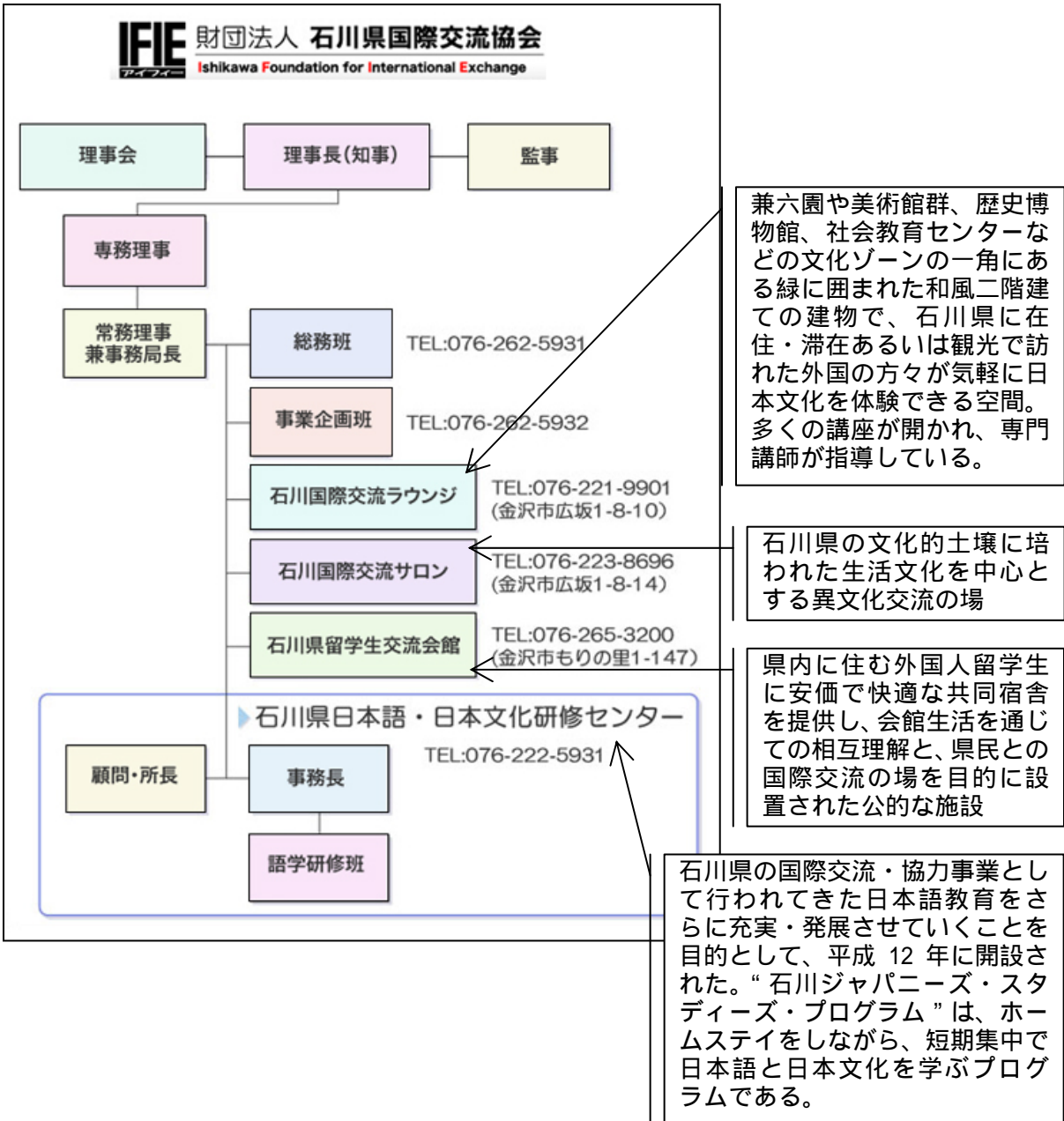
また、経済交流、学術・文化等の国際交流並びに国際協力を促進することにより、活力ある地域経済社会の実現と、広い国際的視野を有する人材の育成を図るとともに、諸外国との相互理解と友好親善に資することを目的として、昭和 59 年に（財）とやま国際センターが設立されている。

2) 石川県の居住外国人支援への主な取組

石川県では、平成 18 年 3 月に、“交流人口の拡大”と“多文化が共生する交流社会づくり”を基本方針とした「石川県国際化戦略プラン」を策定した。また在住外国人と地域住民が共に生き生きと安心して暮らせる社会づくりを推進するため、国際化戦略プランを具体化した「在住外国人施策に関する指針」を策定している。

石川県における国際交流・国際協力と語学研修及び国際情報サービスの拠点は、国際交流センターであり、パスポートセンター、（財）石川県国際交流協会、ユーロセンター金沢が入居している。特に、（財）石川県国際交流協会（通称：アイフィー）は、国際交流推進の中核的組織として、石川県の出資により、平成 4 年 3 月に設立され、国際交流や国際協力活動とその支援、啓発的活動、国際情報サービスなど、県民と外国人との架け橋をめざし、様々な活動に取り組んでいる。

以下に、協会の組織図と主な取組の概要を示す。



【出典】(財)石川県国際交流協会HP
http://www.ifie.or.jp/japan/ifie/summary/kyoukai_home.html

図 4-92 (財)石川県国際交流協会

3) 福井県の居住外国人支援への主な取組

福井県では、平成 5 年に「福井県国際交流推進基本構想」を策定し、「外国人にも魅力ある、暮らしやすい地域づくり」に取り組んでいる。また、地域社会における変化に適切に対応した暮らしの中の国際化という新たな課題等を踏まえて見直しを実施し、平成 13 年に「福井県国際化推進プラン」(計画期間 平成 13 年度～平成 22 年度)を策定している。

なお、国際交流を推進する機関として、(財)福井県国際交流協会がある。

4) 新潟県の居住外国人支援への主な取組

新潟県では、平成 2 年に「新潟県国際化推進プラン 2 1」を策定し、「世界に開かれた新潟県づくり」を目指して、国際化推進に向けた施策展開を実施している。また平成 9 年には、国際交流の実績を活かしながら、地域レベルでの国際協力の展開を図るため、「新潟県国際協力推進大綱」を策定した。

その後、新潟県の国際化を取り巻く状況が大きく変化したことを受けて、これまでに培った国際化推進の実績や各種基盤を活かしながら、新しい世紀の中で積極的に国際化を推進するため、平成 14 年 3 月に「新潟県国際化推進大綱」(目標期間 平成 15 年度～平成 22 年度)を策定している。

新潟県における国際交流の拠点として、平成 2 年に(財)新潟県国際交流協会が設立され、以下に示す取組を実施している。

1. 県民の国際意識の高揚に努め、様々な分野での人的往来の活発化を促進します。
2. より多くの外国人が本県に訪れる、または訪れたいような情報の提供やインフォメーション機能の整備に取り組みます。
3. 民間の国際交流・国際協力活動の担い手である N G O 等を支援します。
4. 異なる文化や価値観を共に認め、尊重し合うことにより、だれもが地域を支える一員として自覚できる多文化共生社会づくりを支援します。
5. 県民のニーズを把握し、行政機関等へ提言するなど専門性の高い機能を発揮します。
6. 行政と民間団体・ボランティアとのネットワーク形成などの橋渡し役を務めます。
7. 地域の国際交流・協力等活動を担う市町村協会、民間団体等のスタッフ、ボランティア等の人材育成に努めます。
8. 情報の収集、提供、発信について質量とも高度化を図ります。

【資料】(財)新潟県国際交流協会 HP

http://www.niigata-ia.or.jp/jp/ct/001_nia_info/001_nia_intro/001_youkoso_intro.html

4.2. 本調査で実施したアンケート調査

本調査では、少子高齢化の進む北陸圏にあって、子育て世帯や高齢者の抱える暮らしの中の日常の行動範囲等の実態把握、仕事と子育ての実態や満足度、移動等利便性に関わる不満や行政要望等について把握を行った。

4.2.1. 子育て環境について

子育て世代に対する意識調査を補完するため、本調査においても、子育て世代へのアンケート調査を行った。重要度と満足度のクロスチェックを行った結果、子育てと仕事の両立、多様なニーズに対応した保育サービスの充実、経済的支援について重要度が高いものの満足度が低く、今後、充実すべき課題として明らかになった。また、高度情報化も課題となっている。あわせて、日常生活圏の状況を見ると、30分未満が9割を超え、日常行動圏は概ね30分圏であることが明らかとなった。

(1) “暮らしやすさ”をはかる視点の設定

子育て世帯は、子どもが小さければ小さいほど、その行動範囲が地域に限られる傾向にあり、彼らが“暮らしやすい”環境を考える場合、より身近な日常生活レベルでの環境改善・充实在課題となる。特に子育ては家族単位だけの問題ではなく、企業や地域社会、行政の幅広い協力を必要とする分野であることから、その視点に関わる子育ての実情を把握する必要がある。

また、北陸新幹線の開通、また急速な進展を見せるICTやロボット技術など、子育て世帯を取り巻く環境が変化し、より広域化していくことがうかがえることから、子育て環境の将来・未来を見据えながら、“暮らしやすい”環境を考える必要がある。

そこで、前述の「少子化社会対策の在り方に関する有識者アンケート調査結果」を参考としながら、“暮らしやすさ”を計る視点を下記のとおり設定し、調査を実施した。

- 日常の行動範囲
- 雇用環境
- 保育サービス等
- 地域等の子育て支援
- 生活環境
- 安全・安心
- 経済的支援
- 利便性
- 公共交通の在り方

(2) アンケート調査結果に基づく分析

「誰もが暮らしやすい生活環境形成」の実現方策を検討するため、子育て世代が抱えている課題やニーズを把握することを目的として、暮らしやすさについての満足度や不安、日頃の交通行動や暮らし方に関するアンケート調査を実施した。

その結果を用いて、子育て世代の実態や不安等について考察する。

なおアンケート結果については、参考資料に添付する。

1) 分析視点1：子育て世代の日常行動と移動時に不便と感ずること

子育て世代の日常行動実態

- 外出頻度については、約 37%の人が「ほぼ毎日」外出し、「週に数回」と合わせると約 90%になる。
- 外出手段としては、「自家用車」(約 84%) が最も多く、次いで「自転車」(約 11%)、「徒歩」(約 4%) となっている。今回の調査では、外出目的を定義していないことから一概にはいえないが、公共交通機関の利用頻度が著しく低い結果となった。
- 片道に要する時間は、30分未満で約 92%であることから、子育て世代の日頃の行動圏は、概ね 30分圏であるといえる。
- 移動時間と移動不便さの相関において、所要時間による差は見られない。
- 交通手段と移動不便さの相関において、特に、徒歩及び自転車で移動する人は、「歩行空間や駅がバリアフリーになっていないこと」や「子どもを連れてバスに乗りづらいこと」が不便であると感じており、交通結節点や交通機関におけるバリアフリーの推進が望まれている。

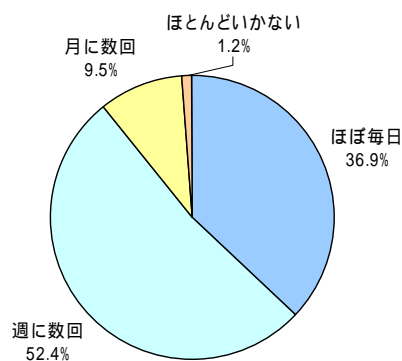


図 4-93 外出頻度

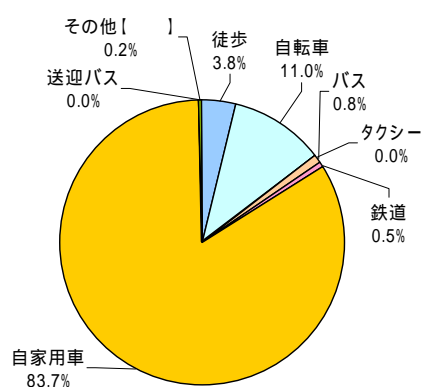


図 4-94 外出手段

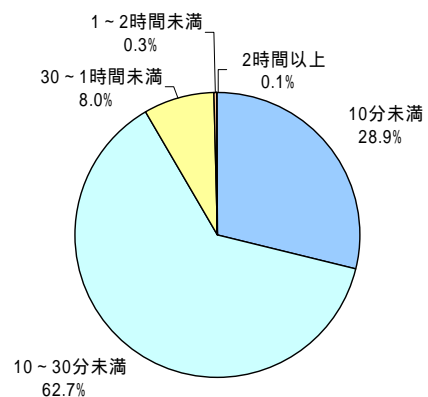


図 4-95 片道に要する時間

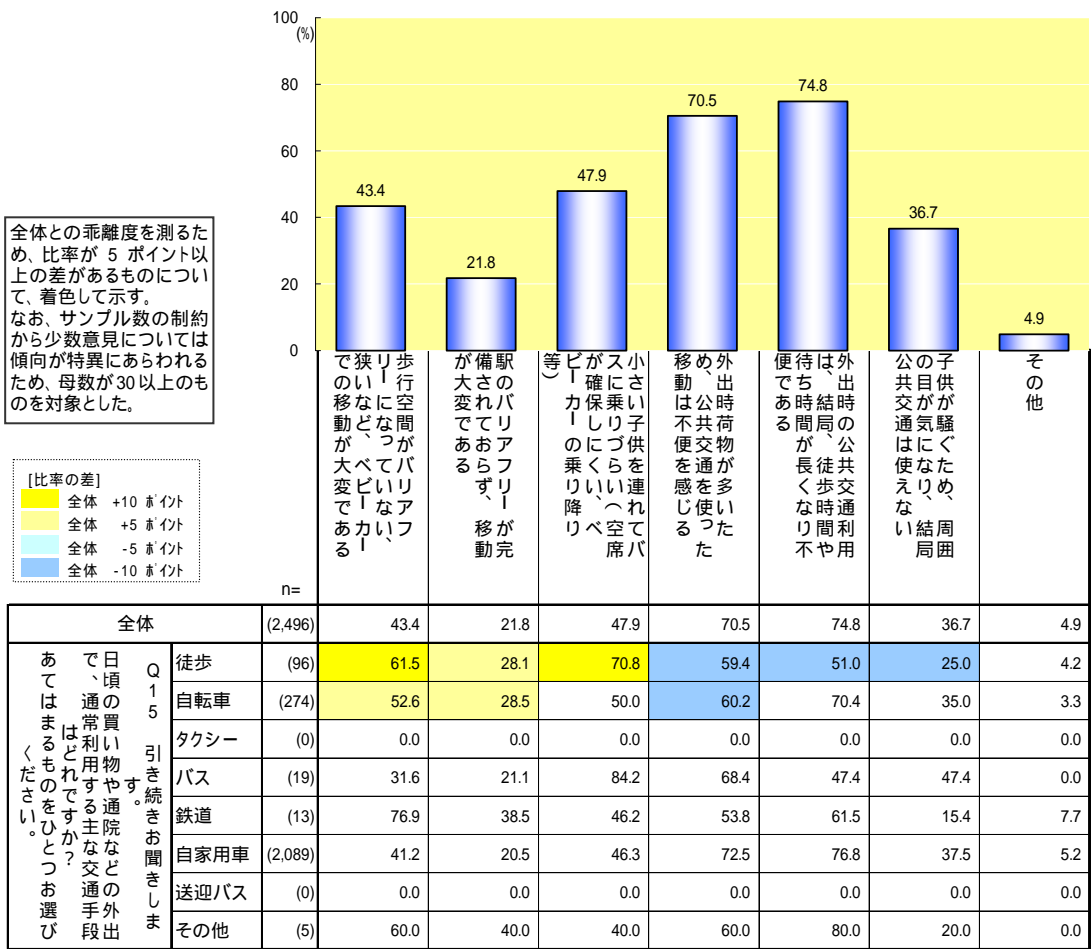


図 4-96 交通手段と移動不便さのクロス分析結果

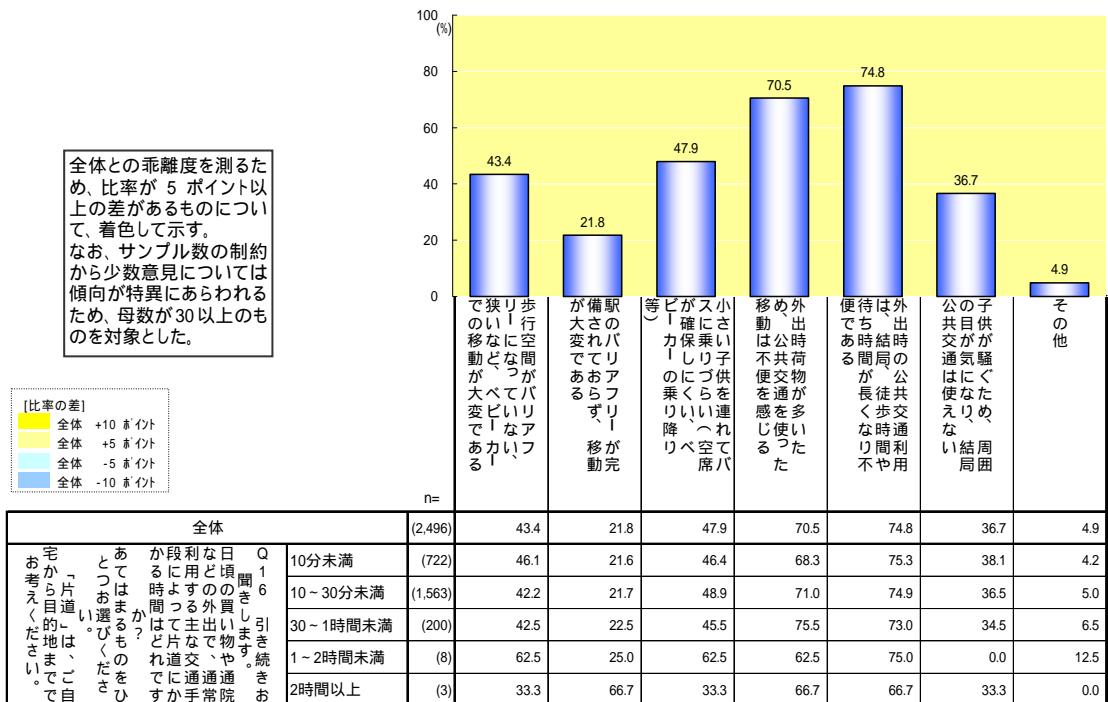


図 4-97 片道に要する時間と移動不便さのクロス分析結果

2) 分析視点2：子育て環境の満足度と重要度

アンケート項目について、満足度と重要度の回答割合を、それぞれ点数化、標準化した値を使用し、クロス分析による評価を行った。

満足度については、各項目の回答割合に下記の点数を乗じ点数化した。重要度の点数化については、回答割合の値をそのまま使用した。

満足 = +2 やや満足 = +1 どちらでもない = ±0 やや不満 = -1 不満 = -2

満足度と重要度は、その尺度が異なるために単純な比較ができない。そのため、尺度を同一になるように調整し（標準化し）比較を行った。具体的には、点数化したデータをもとに、全項目の平均と標準偏差をもとめ、下記式により求めている。

$$\text{標準化値} = (\text{各項目の点数} - \text{平均値}) / \text{標準偏差}$$

子育て環境の満足度と重要度

- 満足度についてみると、「就業環境」(項目 1、2)、「保育サービス」(項目 3~6)、「地域等の子育て支援」(項目 7~9)、そして「経済的支援」(項目 17、18)について、総じて満足度が低い。
- 特に「職場復帰しやすい環境」、「道路や公園、駅でのバリアフリー化」に関する満足度が低い。
- 重要度では、重要と考える項目が限られていることがうかがえる。
 - ・子育てと仕事を両立しやすい環境
 - ・職場復帰しやすい環境
 - ・日頃、子どもが遊べる環境整備
 - ・防犯
 - ・経済的支援
 - ・急病に対応できる医療施設が身近にあること
- 満足度と重要度の相関において、重要度が高いものの満足度が低い項目は、都市部・農山漁村部ともに「就業環境」(項目 1、2)及び「経済的支援」(項目 17、18)となっており、行政と企業が一体となった育児支援対策が急務となっている。

全体結果

N=2,496

| | 満足度 | 重要度 |
|-----------------------------------|------|------|
| 1 労働時間の短縮など、子育てと仕事を両立しやすい環境にある | -0.6 | 1.9 |
| 2 育児休業をとりやすく、職場復帰しやすい環境にある | -1.7 | 0.9 |
| 3 働く者の多様なニーズに対応した保育サービスがある | -0.9 | 1.2 |
| 4 子育ての不安や悩みを相談できる窓口がある | 0.2 | -0.8 |
| 5 子育て支援施設、サービス等の関連情報が多く発信されている | -0.1 | -0.8 |
| 6 子育てに関する教育や事前の子育て体験を受ける機会が多い | -0.5 | -1.1 |
| 7 両親や地域住民同士の保育サポートがある | 0.4 | -0.3 |
| 8 子育てサークルなどの支援活動を行うNPO等の民間団体がある | -0.9 | -1.1 |
| 9 子育て家庭を支援する拠点が整備されている | -1 | -0.7 |
| 10 多様な暮らし方(子どもの成長や養育)に適した住宅選択性が高い | 1.1 | -0.6 |
| 11 児童公園など、日頃子どもが遊べる環境が整備されている | 1.2 | 0.7 |
| 12 レクリエーションの場が多い | -0.4 | -0.8 |
| 13 自然や町並み等、住まいの周りの景観が優れている | 2.1 | -0.6 |
| 14 道路や公園、駅などのバリアフリー化が進んでいる | -1.3 | -1.1 |
| 15 犯罪から子どもを守る体制が整備されている | 0.3 | 1.2 |
| 16 地域コミュニティが確立され、地位の防災・防犯面で安全性が高い | 1.1 | -0.2 |
| 17 児童手当など経済的支援が充実している | -0.6 | 1.3 |
| 18 子どもの教育、医療にかかる経済的支援が充実している | -0.8 | 1.1 |
| 19 多様な買い物場所が近くにある | 0.9 | -0.5 |
| 20 通勤、営農等に便利もしくは近隣に保育施設がある | 1.2 | -0.8 |
| 21 子どもの急病に対応できる医療施設が近くにある | 0.3 | 1.1 |

凡例

■ :重要度が高く、満足度が高いもの ■ :重要度が高いが、満足度が低いもの

図 4-101 参照

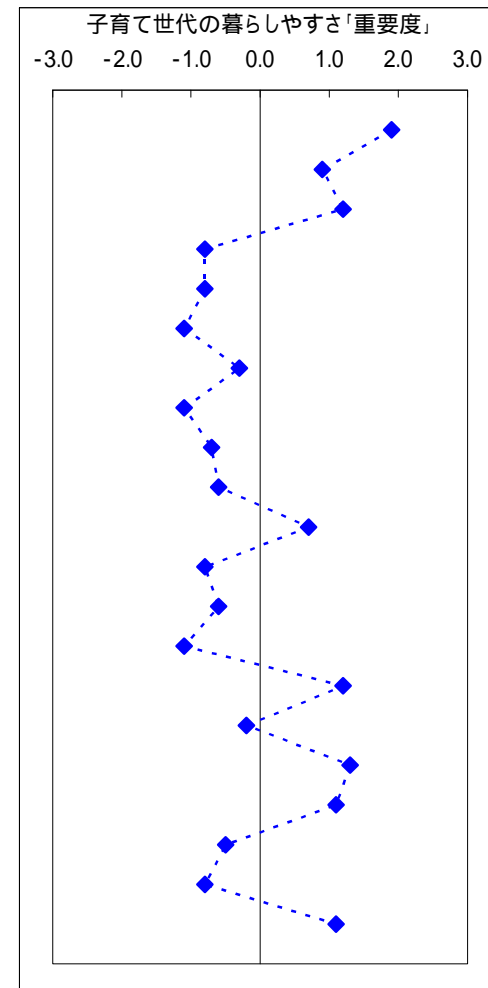
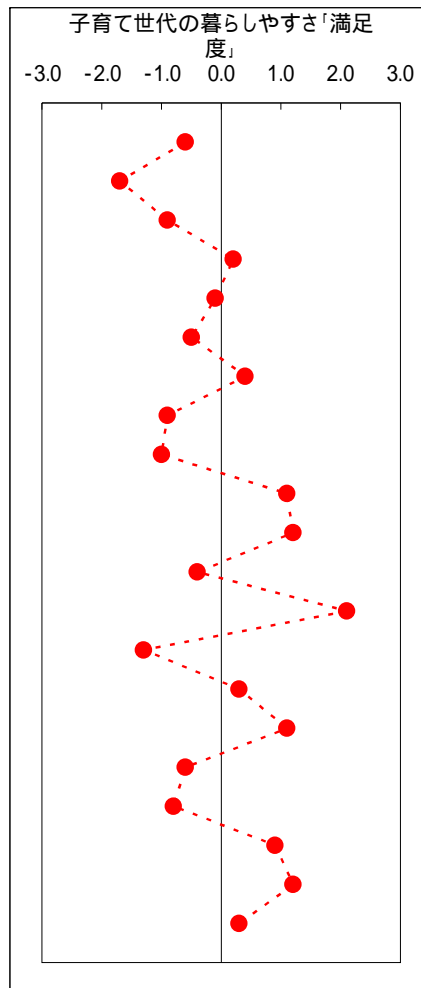


図 4-98 地域の子育て環境に関する満足度と重要度（標準化後）

都市部・農村部別
都市部 N=1,579 農山漁村部 N=917

| | 都市部 | | 農山漁村部 | |
|-----------------------------------|------|------|-------|------|
| | 満足度 | 重要度 | 満足度 | 重要度 |
| 1 労働時間の短縮など、子育てと仕事を両立しやすい環境にある | -0.5 | 2.0 | -0.6 | 1.9 |
| 2 育児休業をとりやすく、職場復帰しやすい環境にある | -1.6 | 0.9 | -1.5 | 1.0 |
| 3 働く者の多様なニーズに対応した保育サービスがある | -1.0 | 1.3 | -0.7 | 1.1 |
| 4 子育ての不安や悩みを相談できる窓口がある | 0.1 | -0.7 | 0.4 | -0.8 |
| 5 子育て支援施設、サービス等の関連情報が多く発信されている | -0.1 | -0.8 | -0.2 | -0.8 |
| 6 子育てに関する教育や事前の子育て体験を受ける機会が多い | -0.5 | -1.1 | -0.5 | -1.1 |
| 7 両親や地域住民同士の保育サポートがある | 0.1 | -0.4 | 0.9 | -0.2 |
| 8 子育てサークルなどの支援活動を行うNPO等の民間団体がある | -0.8 | -1.1 | -0.9 | -1.1 |
| 9 子育て家庭を支援する拠点が整備されている | -0.9 | -0.7 | -0.9 | -0.7 |
| 10 多様な暮らし方(子どもの成長や養育)に適した住宅選択性が高い | 1.0 | -0.5 | 1.0 | -0.7 |
| 11 児童公園など、日頃子どもが遊べる環境が整備されている | 1.3 | 0.8 | 0.7 | 0.6 |
| 12 レクリエーションの場が多い | -0.4 | -0.8 | -0.4 | -1.0 |
| 13 自然や町並み等、住まいの周りの景観が優れている | 1.7 | -0.7 | 2.4 | -0.6 |
| 14 道路や公園、駅などのバリアフリー化が進んでいる | -1.1 | -1.1 | -1.4 | -1.1 |
| 15 犯罪から子どもを守る体制が整備されている | 0.1 | 1.2 | 0.6 | 1.2 |
| 16 地域コミュニティが確立され、地位の防災・防犯面で安全性が高い | 0.8 | -0.3 | 1.5 | -0.1 |
| 17 児童手当など経済的支援が充実している | -0.8 | 1.2 | -0.2 | 1.5 |
| 18 子どもの教育、医療にかかる経済的支援が充実している | -1.1 | 1.1 | -0.2 | 1.1 |
| 19 多様な買い物場所が近くにある | 1.7 | -0.4 | -0.7 | -0.5 |
| 20 通勤、営農等に便利もしくは近隣に保育施設がある | 1.1 | -0.8 | 1.2 | -0.8 |
| 21 子どもの急病に対応できる医療施設が近くにある | 0.8 | 1.1 | -0.5 | 1.1 |

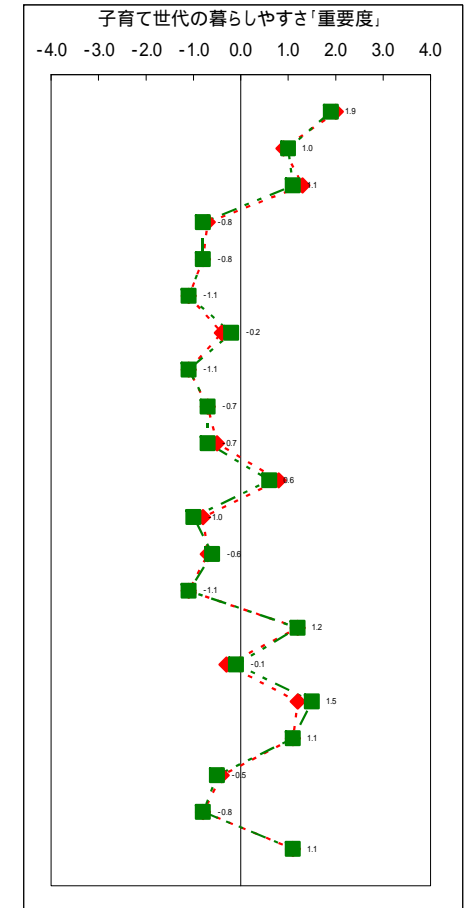
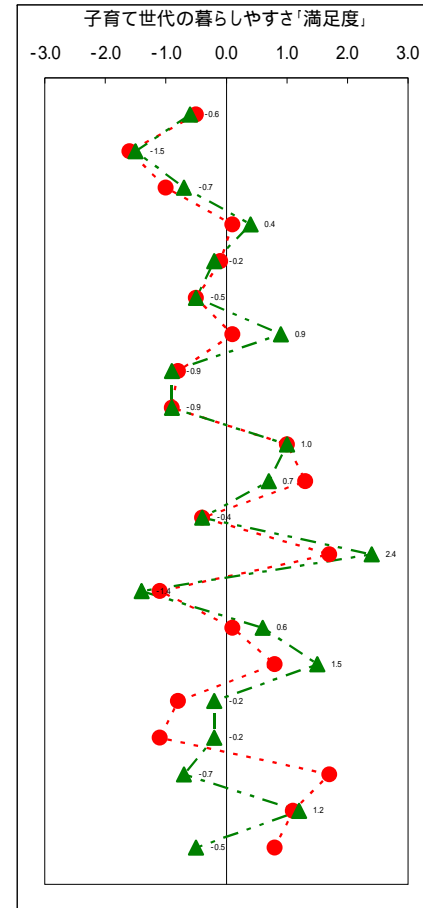
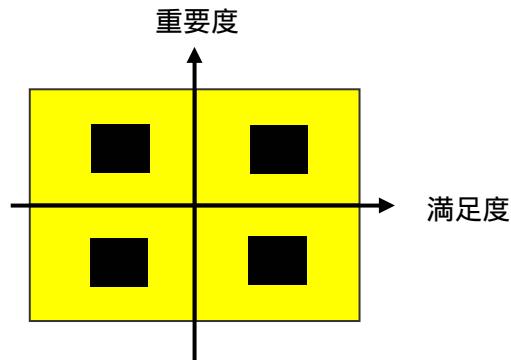


図 4-99 地域の子育て環境に関する満足度と重要度（標準化後：都市部/農山漁村別）

続いて、満足度と重要度のクロス分析結果を示す。

行政に求められている対策が明らかにするため、暮らしやすさに関する満足度と重要度の相関を分析した。満足度と重要度のクロス分析においては、特に 象限及び象限に関わる項目について対策を講じることが重要である。

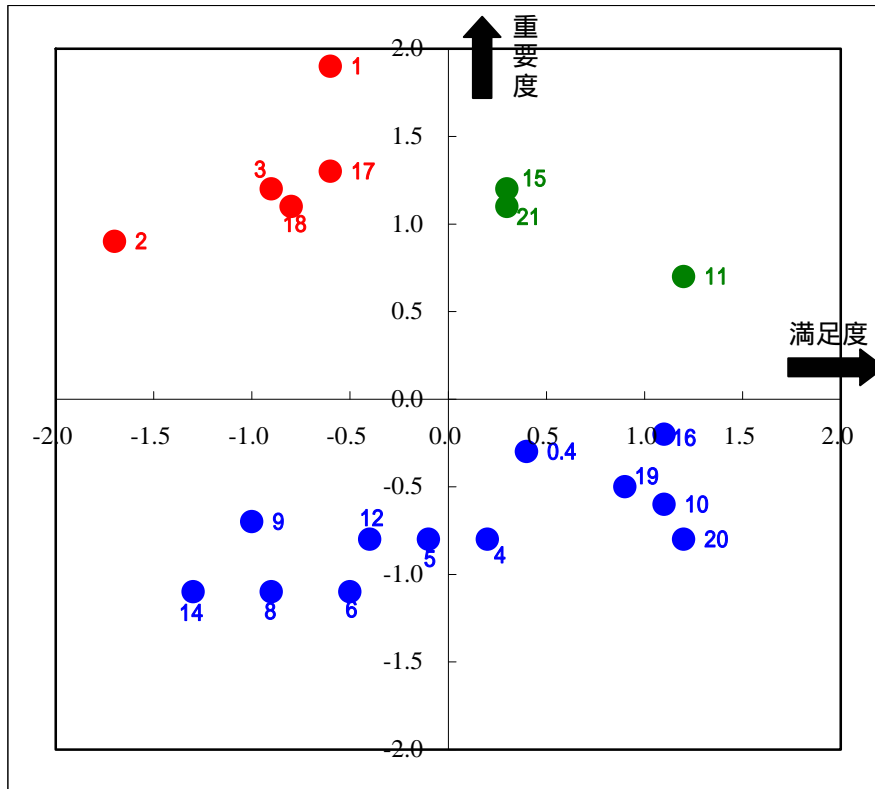


-) 重要度、満足度がともに高い項目であり、さらに満足度を高めることが望ましい。
-) 重要度は高いが、満足度が低い項目であり、早急な対策が必要とされる。

図 4-100 満足度と重要度のクロス分析の視点

満足度と重要度のクロス分析

- さらに満足度を高めることが望ましい項目は、「子どもが遊べる環境」、「防犯体制」、「近くの医療施設」の整備であり、暮らしやすい北陸圏の現状と安全・安心がもとめられている時勢に合致した結果となっている。
- 重要度は高いが満足度が低く、早急な対策が必要とされる項目は、「子育てと仕事の両立しやすい環境整備」、「多様な需要ニーズに対応した保育サービスの充実」、そして児童手当などの「経済的支援」となっている。女性就業率や共働き率の高い北陸圏に特徴的であり、企業と行政が一体となった子育て支援が急務であるといえる。
- 「道路や公園、駅などのバリアフリー化」については、重要度、満足度ともに低いですが、前述の通り、徒歩や自転車移動の場合には重要度が極めて高いため、今後の公共交通機関への転換推進を踏まえると、重要な課題の一つである。



| | |
|----|---------------------------------|
| 1 | 労働時間の短縮など、子育てと仕事を両立しやすい環境にある |
| 2 | 育児休業をとりやすく、職場復帰しやすい環境にある |
| 3 | 働く者の多様なニーズに対応した保育サービスがある |
| 4 | 子育ての不安や悩みを相談できる窓口がある |
| 5 | 子育て支援施設・サービス等の関連情報が多く発信されている |
| 6 | 子育てに関する教育や事前の子育て体験を受ける機会が多い |
| 7 | 両親や地域住民同士の保育サポートがある |
| 8 | 子育てサークルなどの支援活動を行う NPO 等の民間団体がある |
| 9 | 子育て家庭を支援する拠点が整備されている |
| 10 | 多様な暮らし方（子どもの成長や養育）に適した住宅選択性が高い |
| 11 | 児童公園など、日頃子どもが遊べる環境が整備されている |
| 12 | レクリエーションの場が多い |
| 13 | 自然や町並み等、住まいの周りの景観が優れている |
| 14 | 道路や公園、駅などのバリアフリー化が進んでいる |
| 15 | 犯罪から子どもを守る体制が整備されている |
| 16 | 地域コミュニティが確立され、地域の防災・防犯面で安全性が高い |
| 17 | 児童手当など経済的支援が充実している |
| 18 | 子どもの教育、医療にかかる経済的支援が充実している |
| 19 | 多様な買物場所が近くにある |
| 20 | 通勤、営農等に便利もしくは近隣に保育施設がある |
| 21 | 子どもの急病に対応できる医療施設が近くにある |

図 4-101 お住まいの地域の子育て環境に関する満足度と重要度のクロス分析結果

3) 分析視点3：子育て世代に魅力ある地域づくりに向けて行政に期待すること

行政に期待する施策

- 概ね、前述の課題と同様であるが、ここでは、「子育てに役立つ情報提供の充実」（32.5％）を期待する人が多いことがわかる。

ICTの普及率が今後一層高まることが想定されることを踏まえ、子育てに関する情報共有プラットフォームの構築などのICT推進についても検討していく必要がある。

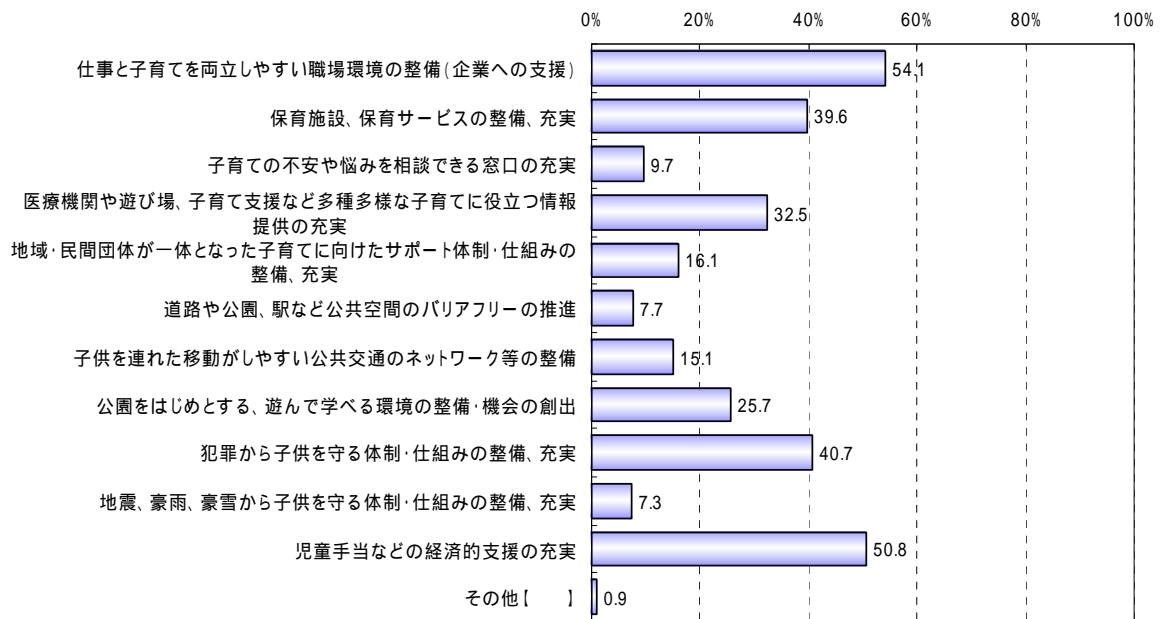


図 4-102 行政に期待すること

4.2.2. 高齢者の生活環境について

高齢者に対する意識調査を補完するため、本調査においても、高齢者へのアンケート調査を行った。重要度と満足度のクロスチェックを行った結果、公共交通機関の利便性向上、冬期における安全・安心な交通の確保、景気対策、介護サービスについて重要度が高いものの満足度が低く、今後、充実すべき課題として明らかになった。あわせて、日常生活圏の状況を見ると、子育て世帯のアンケート結果と同様、概ね 30 分圏であることが明らかとなった。

(1) “暮らしやすさ”を計る視点の設定

国土交通省国土計画局による「人口減少・高齢化の進んだ集落等を対象とした日常生活に関するアンケート調査の集計結果(中間報告)」及び、「高齢者が暮らしやすいまち～23区比較」(平成20年11月 (財)森記念財団)等の高齢者の暮らしやすさに関する資料を参考に、高齢者の“暮らしやすさ”を計る指標を下記のとおり設定した。

- 日常の行動範囲
- 利便性
- 移動・公共交通
- 安全・安心
- 生活費
- 健康・余暇
- 介護
- 開放感等
- 雪

また、特に中山間地に居住する回答者を意識し、今後の居住意向についても確認した。

(2) アンケート調査結果に基づく分析

「誰もが暮らしやすい生活環境形成」の実現方策を検討するため、高齢者が抱えている課題やニーズを把握することを目的として、暮らしやすさについての満足度や不安、日頃の交通行動や暮らし方等に関するアンケート調査を実施した。

その結果を用いて、高齢者の実態や不安等について考察する。

なおアンケート結果については、参考資料に添付する。

1) 分析視点1：高齢者の日常行動と公共交通への期待

高齢者の日常行動

- 概ね既存アンケートと同様の傾向を示している。
- ほぼ毎日外出するが約37%、週に数回とあわせると約85%にのぼる。
- 交通手段は、自家用車が圧倒的に多い。
- また、片道にかかる時間は、30分未満で約94%となっていることから、高齢者の行動範囲は30分圏であると考えられる。

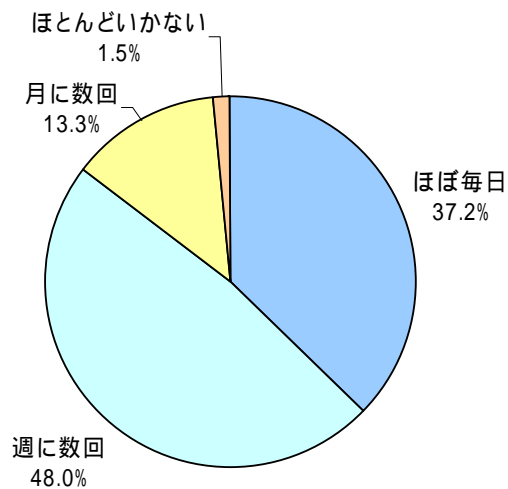


図 4-103 外出頻度

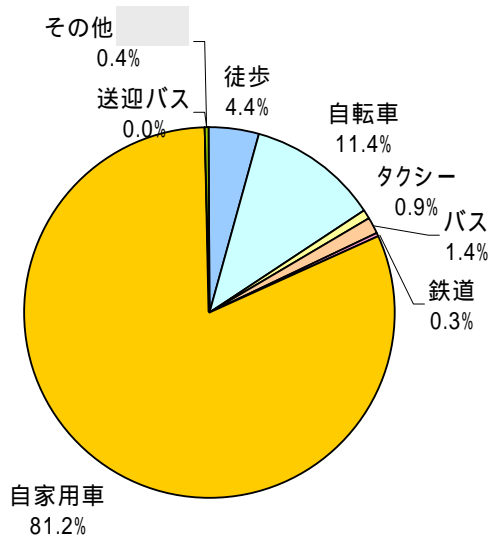


図 4-104 外出手段

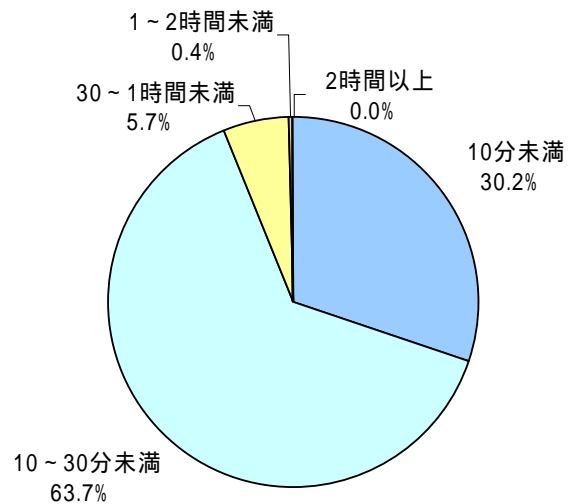


図 4-105 片道に要する時間

2) 分析視点2：今後生活する上での不安

今後生活する上での不安

- 「近くに働き口がないこと」が最も多く、次いで、「被災の恐れ」となっている。
- また「車の運転をしたくないが、代替りの交通手段がない」、「公共交通が通っていない」なども高い割合となっている。

[Q12]今後、生活する上で、お困りのこと・不安なことはありますか？
一番困っていることから順に3つまでお選びください。

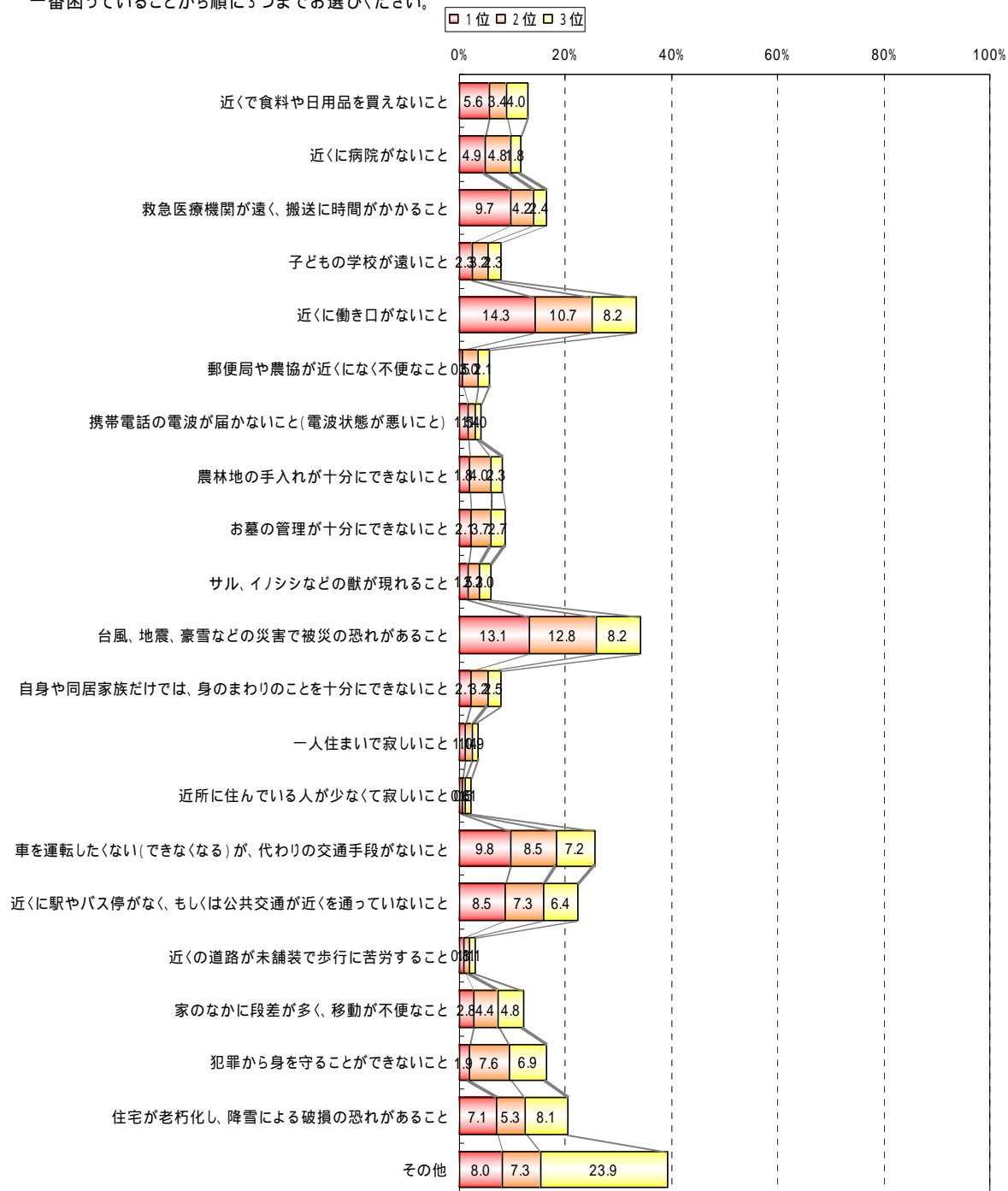


図 4-106 今後生活する上での不安

今後生活する上での不安（生活圏域別）

- 都市部では、「災害の不安」、「車に代わる交通手段がない」といった不安要素が指摘
- 一方、農山漁村では、「働き口のないこと」、「医療への不安」、「買い物場（機会）がない」ことが上位を占めている。
- 中山間地域に暮らす高齢者の課題は、災害よりも医療や買い物といった日常の暮らしに関する事項が強い。

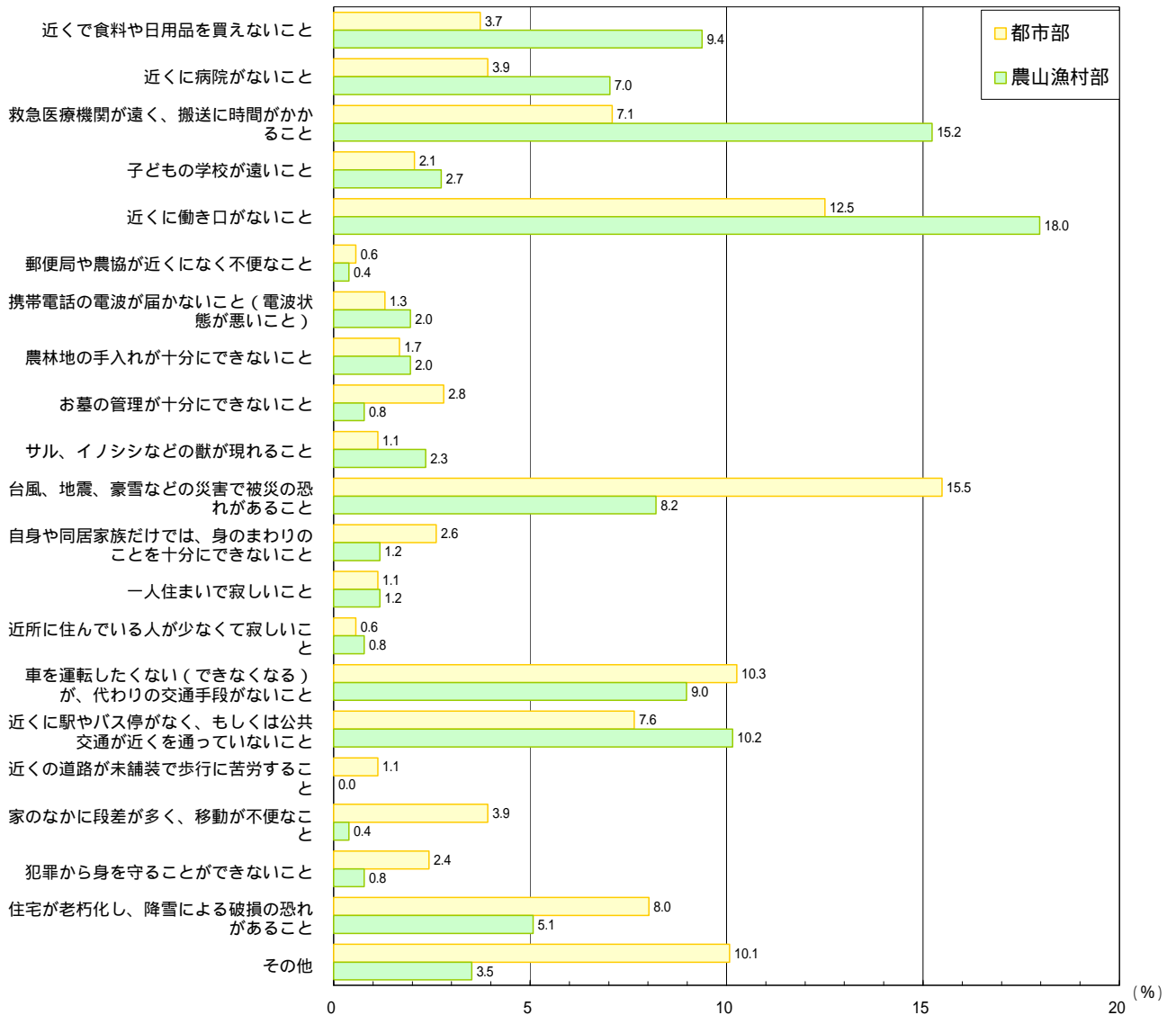


図 4-107 今後生活する上での不安（生活圏域別）

3) 分析視点3：高齢者を取りまく環境の満足度と重要度

アンケート項目について、満足度と重要度の回答割合を、それぞれ点数化、標準化した値を使用し、クロス分析による評価を行った。

満足度については、各項目の回答割合に下記の点数を乗じ点数化した。重要度の点数化については、回答割合の値をそのまま使用した。

満足 = +2 やや満足 = +1 どちらでもない = ±0 やや不満 = -1 不満 = -2

満足度と重要度は、その尺度が異なるために単純な比較ができない。そのため、尺度を同一になるように調整し（標準化し）比較を行った。具体的には、点数化したデータをもとに、全項目の平均と標準偏差をもとめ、下記式により求めている。

$$\text{標準化値} = (\text{各項目の点数} - \text{平均値}) / \text{標準偏差}$$

以下に分析結果を整理する。

暮らしの満足度

- 全体的な傾向としては、「利便性」(項目 1~5)、「開放感等」(項目 25~27)についての満足度が高い一方、「移動・公共交通」(設問 6~10)、「安全・安心」(項目 11~15)、「生活費」(設問 16、17)に対しては不満が多い。
- 重要度については、「利便性」(特に、買い物、通院、預貯金の出し入れ)、「生活費」を挙げる人が多く、また防災・防犯・交通安全面も高い傾向にある。
- 都市部、農山漁村別では、概ね大きな傾向は一致している。大きく異なる点は、「豊かな自然に囲まれ、静かである」の重要度が、農山漁村部でかなり高い点である。

全体結果
N=792

| | | 満足度 | 重要度 |
|----------|--|------|------|
| 利便性 | 1 食料品や日用品などの買い物先が近く、便利である | 1.8 | 3.4 |
| | 2 よく通う病院が近くにあり、安心して生活できる | 1.2 | 1.8 |
| | 3 郵便局や銀行、農協が近くにあり、預貯金の出入れが容易である | 1.8 | 0.3 |
| | 4 職場に近く、通勤が便利である | 0.9 | -0.2 |
| | 5 介護施設が近くにあり、便利である | 0.4 | -0.7 |
| 移動・公共交通 | 6 買い物等で、知り合いの車に同乗できるため、“足”の心配はない | -0.4 | -0.9 |
| | 7 バス停が近く、便利である | -0.4 | -0.5 |
| | 8 バスの本数も比較的多く、待ち時間が少ない | -1.8 | 0.3 |
| | 9 駅が近く、便利である | -0.7 | -0.4 |
| 安全・安心 | 10 電車の本数も比較的多く、待ち時間が少ない | -1.9 | -0.2 |
| | 11 地域コミュニティが確立され、防災・防犯面で安全性が高い | 0.4 | 0.7 |
| | 12 家に、災害や犯罪から身を守る設備や装置が整備されているため安心である | -0.7 | -0.8 |
| 生活 | 13 道路のバリアフリー化が進み、安全で歩きやすく整備されている | -1.1 | -0.4 |
| | 14 道路等の除雪がなされ、冬期も安心して運転や歩行ができる | -0.1 | 0.4 |
| | 15 屋根の雪降ろしについて、地域の人やボランティアによる支援サービスがある | -0.8 | -0.7 |
| レクリエーション | 16 生活に必要なものの物価が安く、生活を圧迫していない | -0.1 | 1.7 |
| | 17 日常生活支援の資金支給がある | -1.3 | -0.6 |
| 開放感等 | 18 近くに温泉があり、ゆっくりできる | 0.7 | -0.2 |
| | 19 比較的広い公園やプール等の施設があり、定期的な運動ができる | 0.3 | -0.6 |
| | 20 遊歩道や散策路が整備され、日頃安心してウォーキングを楽しめる | 0.2 | -0.4 |
| | 21 図書館やコンサートホール等の文化的施設が多い | -0.1 | -0.3 |
| 開 | 22 カラオケ、パチンコ、映画館等の娯楽施設が多い | -0.3 | -0.9 |
| | 23 カルチャーセンター等習い事の場・機会が多い | -0.3 | -0.8 |
| | 24 行政や民間による介護サービスが充実している | -0.5 | 0.0 |
| | 25 豊かな自然に囲まれ、静かである | 1.7 | 1.1 |
| | 26 自然や町並み等、住まいの周りの景観が優れている | 0.7 | -0.4 |
| | 27 他地域に誇れる地域資源(自然、食材、祭り、建築物等)が多い | 0.4 | -0.6 |

凡例
 :重要度が高く、満足度が高いもの
 :重要度が高いが、満足度が低いもの
 図 4-111 参照

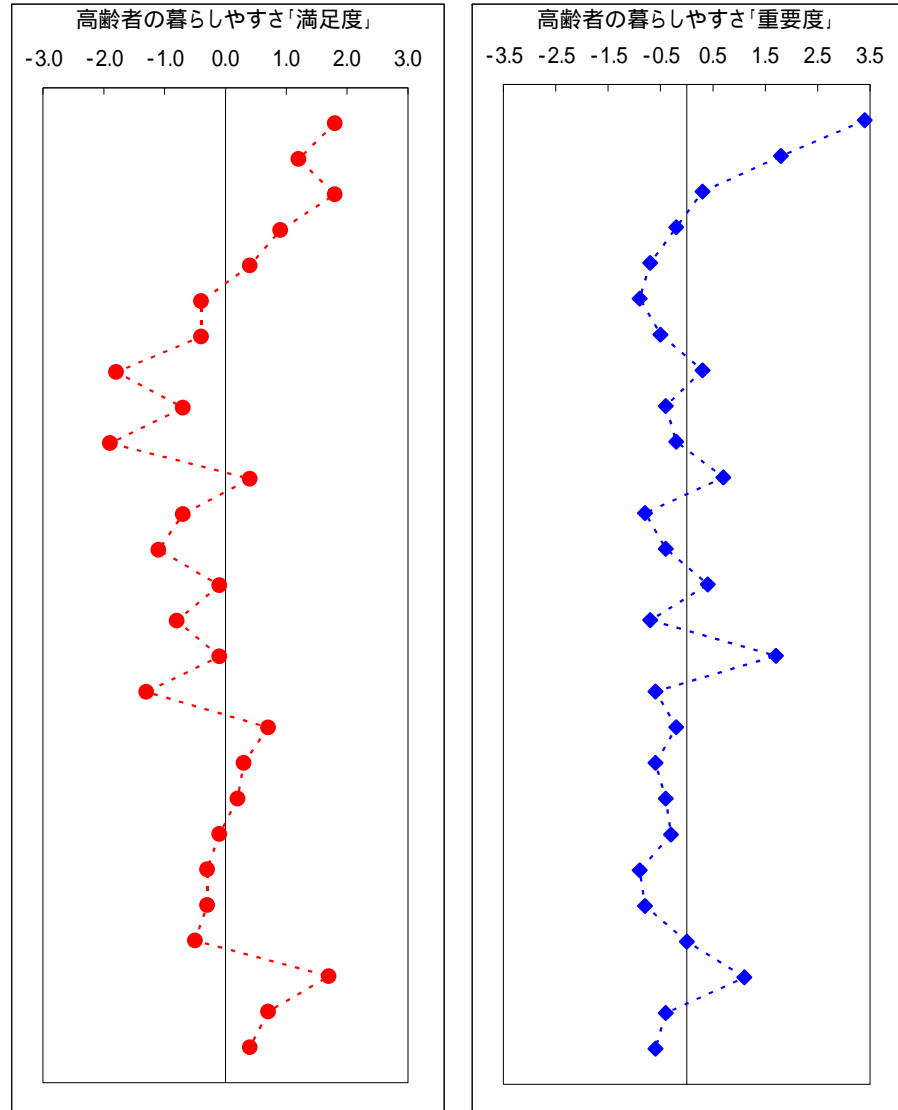


図 4-108 お住まいの地域の環境に関する満足度と重要度（標準化後）

全体結果
都市部 N=536 農山漁村部 N=256

| | | 都市部 | | 農山漁村部 | |
|----------|--|------|------|-------|------|
| | | 満足度 | 重要度 | 満足度 | 重要度 |
| 利便性 | 1 食料品や日用品などの買い物先が近く、便利である | 2.0 | 3.6 | 1.3 | 2.9 |
| | 2 よく通う病院が近くにあり、安心して生活できる | 1.5 | 1.7 | 0.7 | 1.9 |
| | 3 郵便局や銀行、農協が近くにあり、預貯金の出入れが容易である | 2.0 | 0.4 | 1.4 | 0.2 |
| | 4 職場に近く、通勤が便利である | 1.0 | -0.2 | 0.6 | -0.1 |
| | 5 介護施設が近くにあり、便利である | 0.4 | -0.7 | 0.4 | -0.6 |
| 移動・公共交通 | 6 買い物等で、知り合いの車に同乗できるため、「足」の心配はない | -0.4 | -0.9 | -0.4 | -0.9 |
| | 7 バス停が近く、便利である | -0.1 | -0.5 | -0.8 | -0.5 |
| | 8 バスの本数も比較的多く、待ち時間が少ない | -1.6 | 0.4 | -2.1 | 0.1 |
| | 9 駅が近く、便利である | -0.4 | -0.4 | -1.3 | -0.4 |
| 安全・安心 | 10 電車の本数も比較的多く、待ち時間が少ない | -1.7 | -0.2 | -2.1 | -0.2 |
| | 11 地域コミュニティが確立され、防災・防犯面で安全性が高い | 0.3 | 0.7 | 0.6 | 0.8 |
| | 12 家に、災害や犯罪から身を守る設備や装置が整備されているため安心である | -0.7 | -0.8 | -0.5 | -0.8 |
| | 13 道路のバリアフリー化が進み、安全で歩きやすく整備されている | -1.2 | -0.3 | -0.8 | -0.5 |
| | 14 道路等の除雪がなされ、冬期も安心して運転や歩行ができる | -0.4 | 0.5 | 0.4 | 0.1 |
| 生活 | 15 屋根の雪降ろしについて、地域の人やボランティアによる支援サービスがある | -1.0 | -0.7 | -0.5 | -0.7 |
| | 16 生活に必要なものの物価が安く、生活を圧迫していない | -0.3 | 1.7 | 0.1 | 1.6 |
| レクリエーション | 17 日常生活支援の資金支給がある | -1.5 | -0.7 | -1.0 | -0.4 |
| | 18 近くに温泉があり、ゆっくりできる | 0.4 | -0.2 | 1.1 | -0.3 |
| | 19 比較的広い公園やプール等の施設があり、定期的な運動ができる | 0.4 | -0.5 | 0.3 | -0.8 |
| | 20 遊歩道や散策路が整備され、日頃安心してウォーキングを楽しめる | 0.1 | -0.3 | 0.2 | -0.6 |
| | 21 図書館やコンサートホール等の文化的施設が多い | 0.0 | -0.2 | -0.3 | -0.6 |
| | 22 カラオケ、パチンコ、映画館等の娯楽施設が多い | -0.2 | -0.8 | -0.4 | -1.0 |
| | 23 カルチャーセンター等習い事の間・機会が多い | -0.3 | -0.7 | -0.3 | -0.8 |
| | 24 行政や民間による介護サービスが充実している | -0.6 | -0.1 | -0.3 | 0.1 |
| 開放感等 | 25 豊かな自然に囲まれ、静かである | 1.4 | 0.6 | 2.1 | 2.2 |
| | 26 自然や町並み等、住まいの周りの景観が優れている | 0.5 | -0.4 | 1.0 | -0.3 |
| | 27 他地域に誇れる地域資源(自然、食材、祭り、建築物等)が多い | 0.2 | -0.7 | 0.7 | -0.2 |

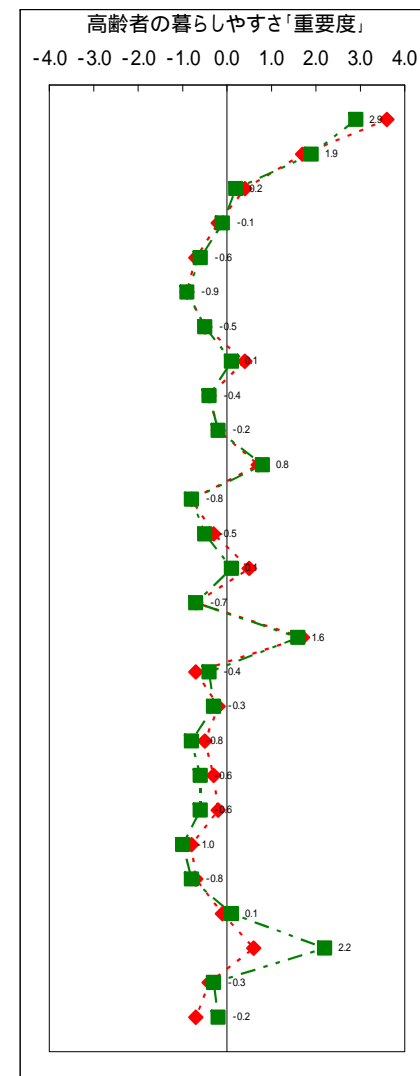
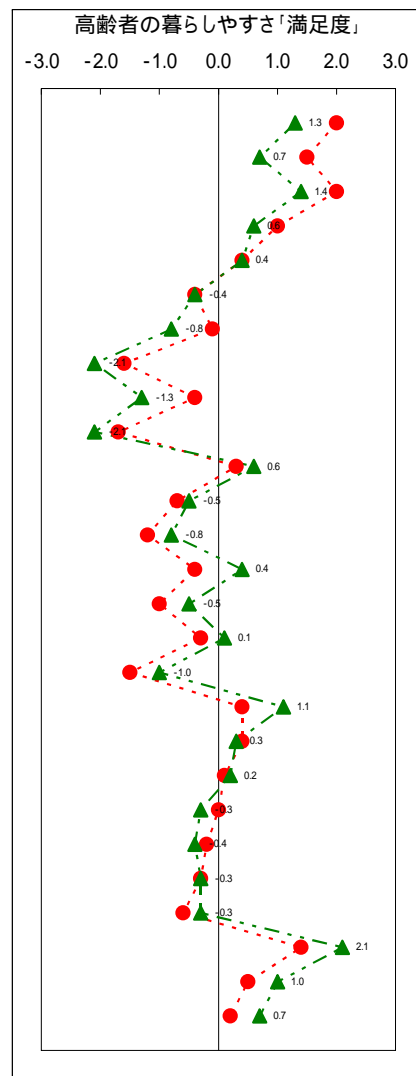
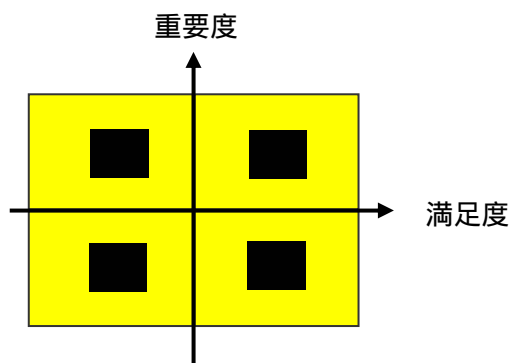


図 4-109 お住まいの地域の子育て環境に関する満足度と重要度（標準化後：都市部/農山漁村別）

続いて、満足度と重要度のクロス分析結果を示す。

行政に求められている対策が明らかにするため、暮らしやすさに関する満足度と重要度の相関を分析した。満足度と重要度のクロス分析においては、特に 象限及び象限に関わる項目について対策を講じることが重要である。

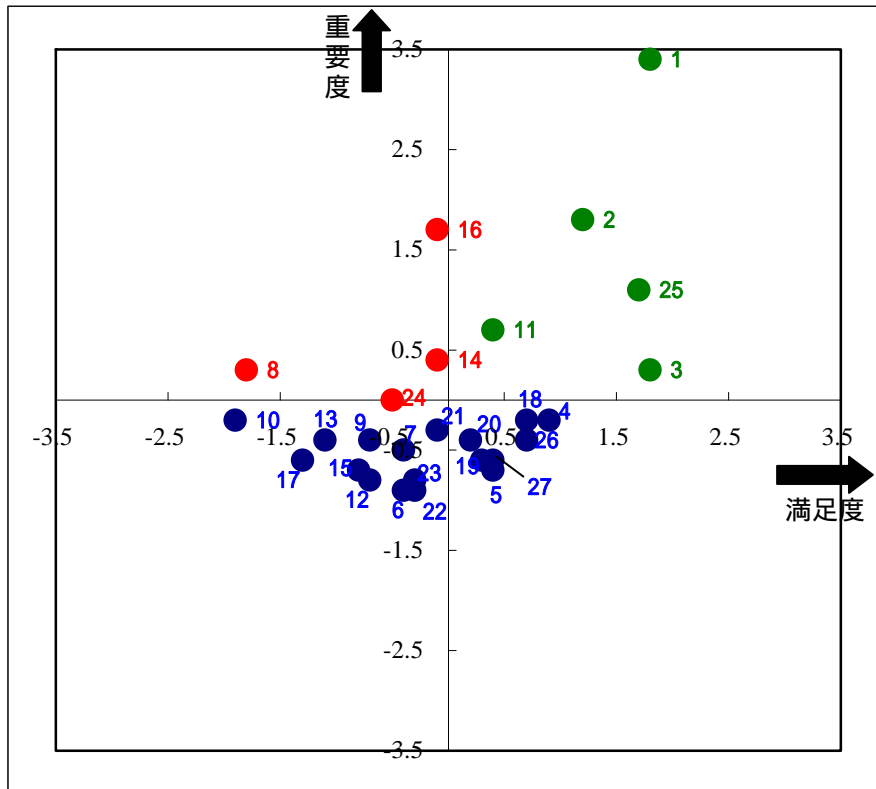


-) 重要度、満足度がともに高い項目であり、さらに満足度を高めることが望ましい。
-) 重要度は高いが、満足度が低い項目であり、早急な対策が必要とされる。

図 4-110 満足度と重要度のクロス分析の視点

施策の方向性

- さらに満足度を高めることが望ましい項目は、近隣の「商業施設」(1)、「医療施設」(2)、「金融機関」(3)の充実や地域コミュニティの強化(11)であり、暮らしやすい北陸圏の現状と安全・安心がもとめられている時勢に合致した結果となっている。
- 重要度は高いが満足度が低く、早急な対策が必要とされる項目は、「公共交通機関の利便性向上」(8)、「冬期の安全な交通の確保」(14)となっており、自動車分担率が高く、全域が豪雪地帯である北陸圏において特徴的な結果であるといえる。今後、高齢化社会において、日常生活の移動手段が自動車から公共交通機関へと転換していくことを考慮すると、公共交通機関を中心とした安全・安心な交通手段の確保が急務である。
- また、生活必需品の物価抑制(16)、介護サービスの充実(24)についても早急な対策が必要とされており、上記のさらに満足度を高めることが望ましい項目とあわせて推進していくことが望ましい。



| | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 食料品や日用品などの買い物先が近く、便利である |
| 2 | よく通う病院が近くにあり、安心して生活できる |
| 3 | 郵便局や銀行、農協が近くにあり、預貯金の出入れが容易である |
| 4 | 職場に近く、通勤が便利である |
| 5 | 介護施設が近くにあり、便利である |
| 6 | 買い物等で、知り合いの車に同乗できるため、“足”の心配はない |
| 7 | バス停が近く、便利である |
| 8 | バスの本数も比較的多く、待ち時間が少ない |
| 9 | 駅が近く、便利である |
| 10 | 電車の本数も比較的多く、待ち時間が少ない |
| 11 | 地域コミュニティが確立され、防災・防犯面で安全性が高い |
| 12 | 家に、災害や犯罪から身を守る設備や装置が整備されているため安心である |
| 13 | 道路のバリアフリー化が進み、安全で歩きやすく整備されている |
| 14 | 道路等の除雪がなされ、冬期も安心して運転や歩行ができる |
| 15 | 屋根の雪降ろしについて、地域の人やボランティアによる支援サービスがある |
| 16 | 生活に必要なものの物価が安く、生活を圧迫していない |
| 17 | 日常生活支援の資金支給がある |
| 18 | 近くに温泉があり、ゆっくりできる |
| 19 | 比較的広い公園やプール等の施設があり、定期的な運動ができる |
| 20 | 遊歩道や散策路が整備され、日頃安心してウォーキングを楽しめる |
| 21 | 図書館やコンサートホール等の文化的施設が多い |
| 22 | カラオケ、パチンコ、映画館等の娯楽施設が多い |
| 23 | カルチャーセンター等習い事の間・機会が多い |
| 24 | 行政や民間による介護サービスが充実している |
| 25 | 豊かな自然に囲まれ、静かである |
| 26 | 自然や町並み等、住まいの周りの景観が優れている |
| 27 | 他地域に誇れる地域資源（自然、食材、祭り、建築物等）が多い |

図 4-111 地域の環境に関する満足度と重要度のクロス分析結果

4) 分析視点4：雪対策について

雪対策

- 玄関先などの家周りの除雪や、屋根の雪下ろしについては、既存アンケートとほぼ同様の結果となっている。
- これらの除雪を、自身または家族で実施していることが多く、家周りについては、両者で約92%に及ぶ。
- 屋根の雪下ろしについては、業者に委託するケースも約4%ある。
- 行政に期待することとしては、「快適な歩道のつながり」(約62%)、「除雪等に対する経済的支援」(約47%)、次いで「豪雪時の緊急移動対応」(約42%)が多くなっている。

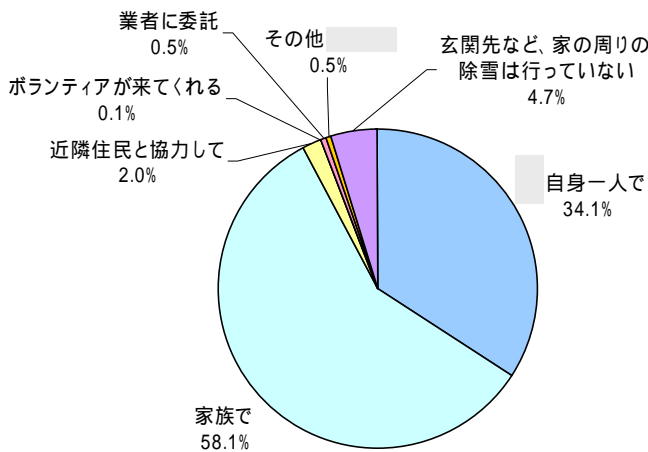


図 4-112 家の周り除雪の実施

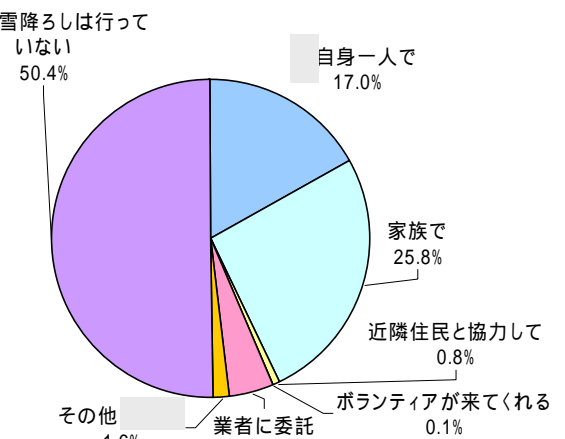


図 4-113 屋根の雪下ろし

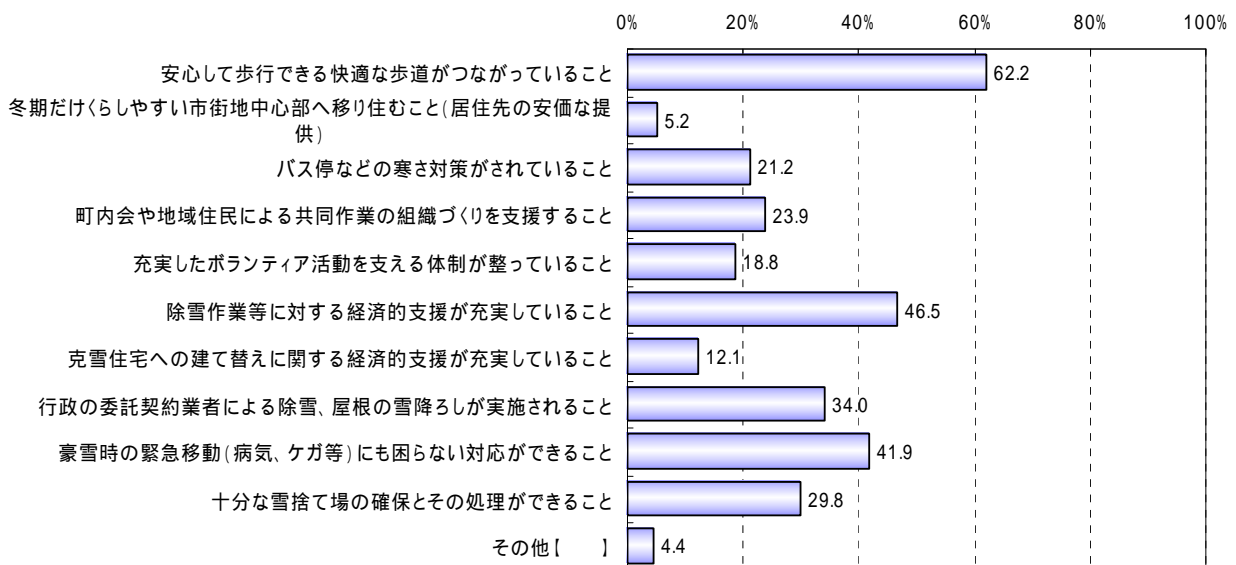


図 4-114 雪対策に関する行政への要望

5) 分析視点5：公共交通への期待

公共交通への期待

- 「デマンド交通」や「公共交通等の機能連携」を期待する人が多い。
- 一方で、特急料金等、料金抵抗を下げることについてのニーズは低い。これは、自家用車を主に使用していることに起因するものと考えられる。
- 都市部、農山漁村部での大きな違いは見られないが、特急料金を下げることが希望する人が都市部には多い。

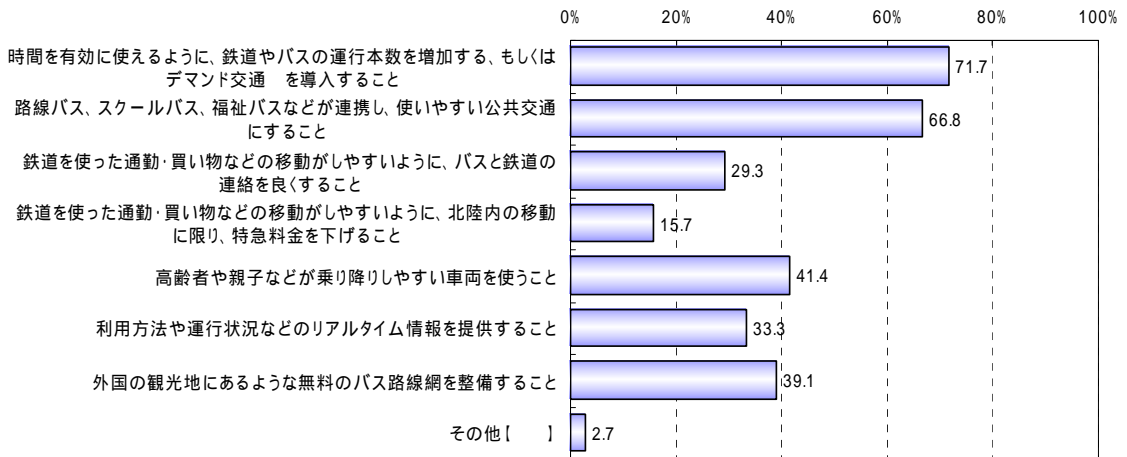


図 4-115 公共交通への期待

| 期待される改善事項 | n | 期待される改善事項 (%) | |
|--|-------|---------------|-------|
| | | 都市部 | 農山漁村部 |
| | (792) | 67.7 | 32.3 |
| 時間を有効に使えるように、鉄道やバスの運行本数を増加する、もしくはデマンド交通を導入すること | (568) | 66.2 | 33.8 |
| 路線バス、スクールバス、福祉バスなどが連携し、使いやすい公共交通にすること | (529) | 64.1 | 35.9 |
| 鉄道を使った通勤・買い物などの移動がしやすいように、バスと鉄道の連絡を良くすること | (232) | 67.7 | 32.3 |
| 鉄道を使った通勤・買い物などの移動がしやすいように、北陸内の移動に限り、特急料金を下げること | (124) | 75.0 | 25.0 |
| 高齢者や親子などが乗り降りしやすい車両を使うこと | (328) | 68.0 | 32.0 |
| 利用方法や運行状況などのリアルタイム情報を提供すること | (264) | 69.7 | 30.3 |
| 外国の観光地にあるような無料のバス路線網を整備すること | (310) | 70.3 | 29.7 |
| その他 | (21) | 85.7 | 14.3 |

図 4-116 公共交通への期待（都市部、農山漁村別）